



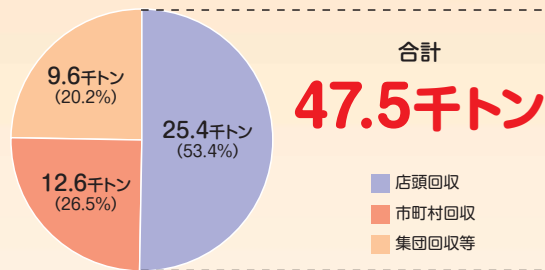
小売事業者のリサイクル状況

店頭回収における紙パック回収量は、全体の半分以上を占めています。

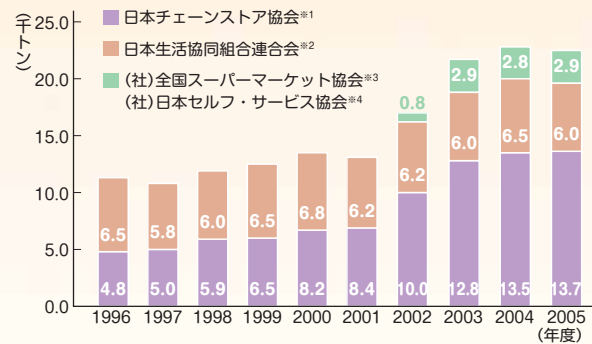
紙パックのリサイクル拠点として大きな役割を担うのが、小売事業者の店頭回収です。今回の調査でも家庭系紙パック回収量の53.4%にあたる25.4千トンを含めており、回収量も堅調に増加しています。

店頭回収は、1990年代より生協が紙パック回収運動の先駆者的な役割を果たしてきました。近年、大手ならびに中小スーパーマーケットでの回収量が増加しており、現在は、大手量販店が中心的な役割を担うようになっています。

家庭系紙パックの回収拠点別回収量(推計値)



店頭回収量の推移



※1: 大手量販店が会員の中心。2004年度の会員企業は94社、会員の総販売額は141,612億円。
 ※2: 全国のおよそ半分の生協が会員。2004年度の生協会員は572で、購買生協供給高は25,920億円。
 ※3: 中堅・中小スーパーマーケットが加盟する経済産業省所管の社団法人。2004年度会員数は410社。
 ※4: セルフ・サービス方式の販売形態を普及促進する経済産業省所管の社団法人。食品を中心とするスーパーマーケットが会員の90%を占めています。2005年8月時点の会員数は221社。

取り組んでいます! リサイクル

サミット株式会社

(東京都杉並区)

取組事例

関東1都3県に85店舗を展開する食品スーパーマーケットのサミット。2005年5月にISO14001環境マネジメントシステムの認証を取得。お買い物袋持参運動やレジ袋の軽量化など、容器包装の削減にも積極的に取り組んでおり、レジ袋辞退率が20%を超えるなど、かなりの成果を上げています。

牛乳パックの店頭回収は1991年から始まり、94年には全店で導入、回収量も増加傾向です。スタート当初より全国パック連の運動が浸透していたこともあり、「洗って・開いて・乾かして」という回収ルールも定着しています。

なお、牛乳パックとアルミ缶の回収による売却代金を環境団体に寄付しており、牛乳パックの2006年度分755万円は「森林整備活動」と「間伐材を使ったつみ木の普及活動」の支援として、社会還元されました。

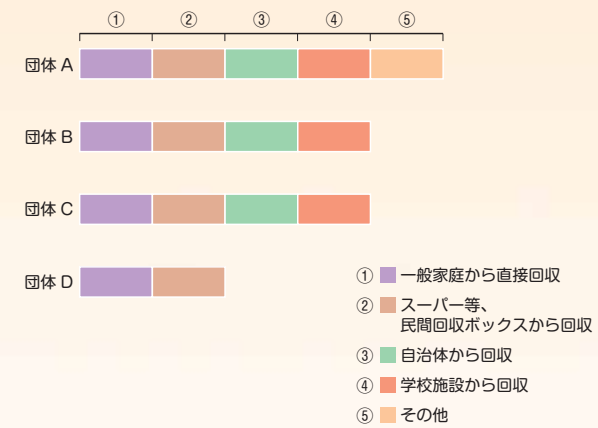


565トンの回収量が明らかに。さまざまな課題も挙げられています。

今年度の調査では、昨年度調査で把握された「奨励金等の自治体援助を受けておらず、年間10トン以上の回収実績がある」福祉作業所と市民団体を対象にアンケート調査を実施。4団体から回答を得た結果、565トンの回収量が明らかになりました。この回収量は集団回収分として今年度調査に計上されています。

回収先としては、4団体すべてで「一般家庭から直接回収」「民間回収ボックスから回収」と回答しており、自治体や学校施設から回収している団体もありました。また回収した紙パックは再生紙メーカーや回収業者に納入。課題として、ガソリン代高騰によるコスト増にもかかわらず取引価格が変わらないこと、回収ボックスにゴミの混入が見られることなどが挙げられています。

福祉作業所・市民団体の紙パック回収先





市町村回収・集団回収の状況

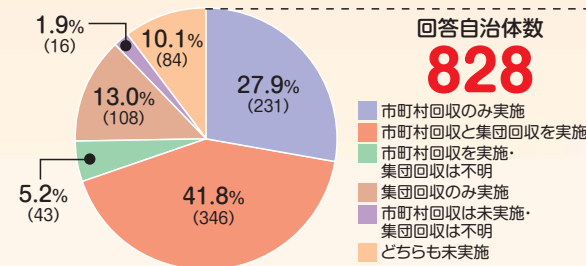
自治体における回収が
確実に増えています。

本調査では、市町村や一部事務組合等が行う収集運搬・処理を「市町村回収」、市町村に指定された住民団体による回収を「集団回収」としています。

今回、回答のあった828自治体のうち、87.9%にあたる728自治体が市町村回収または集団回収を行っています。これは昨年比2.9ポイント増で、逆にどちらも実施していない自治体は10.1%と、前年度に比べ2.6ポイント減少しています。

中でも市(政令指定都市と特別区)における実施数は、90年代半ばと比べると市町村回収で約3倍、集団回収で約1.5倍に増加しています。これは1995年に成立した容器包装リサイクル法の影響で市町村回収が急増し、現在ではともに紙パック回収の大きなチャネルになっていることがわかります。

市町村回収と集団回収の実施率

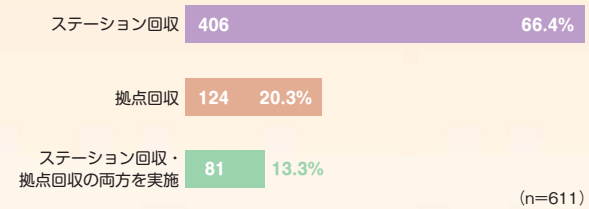


回収方法はステーション
方式が8割。回収対象が
今後の課題。

市町村での回収方法を見てみると、ステーション回収(戸別回収を含む分別収集)と拠点回収の2つの方式に分けられます。ステーション回収は拠点回収に比べ利用者の利便性の良いことから、全体の8割近くで実施されています。

ところで今回、各自治体で紙パックをどのような呼び名で回収しているかを調査したところ、「紙パック」が65.3%、「牛乳パック」が28.5%、飲料パックなど「その他」が6.2%でした。また回収対象容器については、1,000ml牛乳パックは100%回収対象とされていますが、500mlや小型の牛乳パック、清涼飲料の紙パック全般は回収対象から外れるケースもあります。特に「牛乳パック」という呼び名で回収している自治体では、その傾向が顕著で、今後の課題といえそうです。

紙パックの市町村回収の方式



紙パックで回収対象としている容器

	1,000ml	500ml	小型
牛乳	100%	95%	73%
清涼飲料	89%	86%	67%

(n=609)

回収量において
他の都市累計を牽引する
一般市、町村。

回収量は、「一般市」「政令指定都市」「特別区」「町村」に分けて集計しており、推計回収量は市町村回収12.6千トン、集団回収9.0千トンでした。その内訳を記したものが下の表です。

人口の66%を占めている「一般市」が市町村回収では回収量全体の68%を、集団回収では74%を占めており、例年通り、他の都市類型を牽引しています。また政令指定都市と特別区は人口比率に比べ、回収量比率が低い一方で、町村はその割合が高く、1人あたりの回収量にも都市類型ごとに関係があることがわかります。

都市類型別の市町村回収・集団回収推計回収量

	全体	一般市	政令指定都市	特別区	町村	
市町村回収	推計量(千トン)	12.6	8.6	1.4	0.6	2.0
	都市類型別回収比率	100%	68%	12%	5%	16%
	1人あたりの回収量(kg/人)	0.10	0.10	0.07	0.07	0.14
集団回収	推計量(千トン)	9.0	6.7	1.2	0.1	1.0
	都市類型別回収比率	100%	74%	13%	2%	11%
	1人あたりの回収量(kg/人)	0.071	0.080	0.057	0.017	0.069
都市類型人口比率	100%	66%	17%	6%	11%	

取り組んでいます! リサイクル

三重県桑名市

取組事例

桑名市では各自治会が主体となって毎月1回、資源回収を行っています。この回収は平成4年に市内モデル地区19ヵ所でスタートし、現在は474ヵ所に拡大。5種(紙類、布類、カン、ビン、ペット)、13品目(牛乳パック、衣服、ペット類等)を回収しています。また自治会による資源回収の補完措置として、平成14年より週1回(主に土曜または日曜の午前中)、市内8ヵ所のスーパーのご好意により駐車場を活用しての回収も実施しています。

地元回収業者さんに桑名市内の自治会回収場所をご案内いただき、朝早くから各品目ごとに分別した資源を出す様子を見せていただきました。小さな子どもさんも13品目の分別のお手伝いをしていました。フレコンバッグは月1回の回収日前日に配付され、当日ユニック車で回収されるシステムです。





学校のリサイクル状況

再生紙メーカーのリサイクル状況

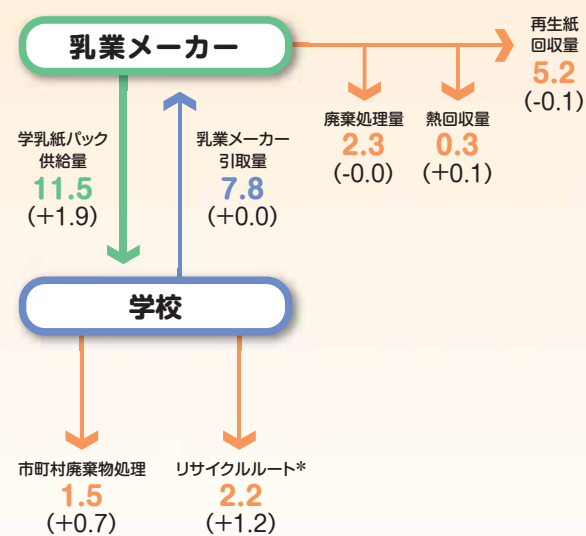
「洗って・開いて・乾かして」は
学校でも年々定着。

2005年度に学乳紙パックとして使用された紙パックは11.5千トン(前年度比1.9千トン増)で、その64.5%にあたる7.4千トンが再生紙原料として回収されました。それらの内訳を記したマテリアルフローが下図です。乳業メーカーに引渡しされる量は昨年と変わりませんが、学校から直接リサイクルルートへ回す量と市町村廃棄物処理分が増加しています。*

なお引渡し時に紙パックを「洗浄・乾燥」している学校は32.8%と、前年より4.7ポイント増で、「洗って・開いて・乾かして」が年々定着してきていることがわかります。また「洗浄」のみ実施の学校は9.0%ありました。

*2005年度のLCI調査に基づき、学乳紙パックの原単位を7.55g/個から8.59g/個に見直したため。

学乳紙パックのマテリアルフロー(推計値)



*古紙回収業者、製紙メーカー、市町村の資源ゴミ収集、市民団体など
※単位：千トン
※()内は2004年度推計値との差です。
※四捨五入しているため、合計と一致しない箇所があります。

取り組んでいます! リサイクル

神奈川県立海老名高校

(神奈川県海老名市)

取組事例

神奈川県教育委員会の「環境教育推進拠点校」に指定されている海老名高校では、校内に環境委員会の委員長を大統領とする「省エネ共和国」を建国し、積極的に環境活動に取り組んでいます。機関紙「省エネ時代」の発行や太陽光発電や風力発電の装置の設置、紙パックの売却益でタイの障害者に車椅子を寄贈するなど、ユニークで熱心な活動は注目の的で、テレビ神奈川でも放映されました。

またその成果を発表する場として、2006年6月には元国連職員の上村雄彦さんを講師に迎えた環境講演会に合わせ、環境委員会が中心となった施設見学会が開催されました。当日は容環協の事務局・専門委員と環境委員会のメンバーで、紙パックの特徴や校内での回収の苦労話等の意見交換を行いました。

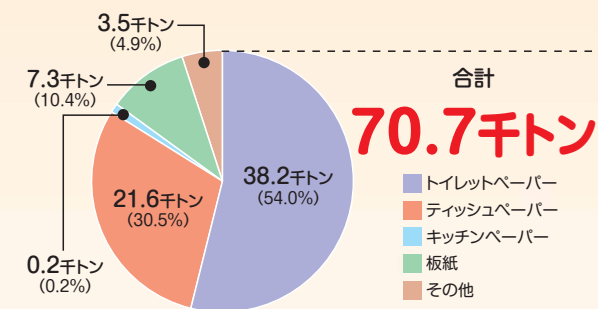


多くがトイレトペーパーなどの
リサイクル製品として
使われています。

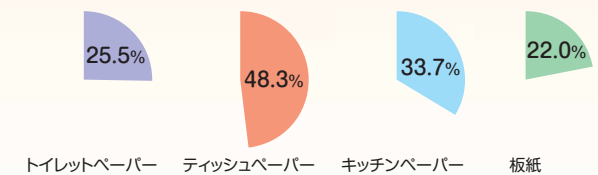
本年度調査では紙パックの受入れが確認されている51社を対象に行い、27社から回答を得ました。

27社中、21社が紙パック損紙・古紙を受け入れており、10社は紙パック損紙・古紙を原料とした再生パルプを購入しています。また再資源化量は70.7千トンで、半分以上がトイレトペーパーに、次いでティッシュペーパーや板紙などのリサイクル製品に利用されています。特にトイレトペーパーへの利用は、2004年度と比べ2.5千トンの増加となっており、リサイクル製品の多くを占めています。

リサイクル製品への利用状況



リサイクル製品への紙パックの平均配合率



取り組んでいます! リサイクル

三栄レギュレーター株式会社 東京工場

(神奈川県川崎市)

取組事例

当工場は、国が推進する資源循環型社会のモデルプロジェクト第1号で、2003年に世界初の「ゼロ・エミッション」を実現した環境先進製紙工場として建設されました。また建設地である川崎ゼロ・エミッション工業団地では、団地内の各企業が環境負荷の軽減に努め、連携して排出物を出さないシステムを構築しています。

工場内には世界最先端の「循環型製紙ライン」を擁し、牛乳パックに使用されているポリエチレンもボイラー燃料の一部として利用されています。処理量は川崎市、京浜地区、並びに周辺の学校・事業者・官公庁から発生する牛乳パック、古紙類など月間7,000トンで毎日約100万個(100トン)ものトイレトペーパーを生産。また再生紙メーカー各社とも、容環協を介して、意見交換や知識収集など、積極的に交流しています。

